



令和9年度 尚絅大学・尚絅大学短期大学部入試日程

総合型選抜・社会人選抜選考日程 ※第1回総合型選抜はエントリー方式					
入試区分	実施学部・学科	エントリー期間	選考日	出願許可選考結果連絡	備考
総合型選抜(第1回)エントリー方式 【一次選考】 体験授業コース 学科特色コース 事前課題コース	現代文化学部 生活科学部 こども教育学部 短期大学部 食物栄養学科 幼児教育学科	令和8年9月10日(木)～9月25日(金)	10月3日(土)	10月9日(金)	・一次選考は無料です。 ・出願が許可された方は、 二次選考へお進みください
		出願期間	選考日	合格発表	
【二次選考】 体験授業コース 学科特色コース 事前課題コース		令和8年10月9日(金)～10月23日(金)	書類審査	11月2日(月)	11月13日(金)
総合型選抜(第2回)自己推薦型 体験授業コース 社会人選抜(第1回)		令和8年12月1日(火)～12月11日(金)	12月19日(土)	12月24日(木)	令和9年1月15日(金)

学校推薦型選抜(指定校・一般・併設校)選考日程

入試区分	実施学部・学科	出願期間	選考日	合格発表	入学手続期限
本学 学校推薦型選抜 (指定校・一般・併設校)	現代文化学部 生活科学部 こども教育学部	令和8年11月2日(月)～11月13日(金)	11月21日(土)	12月1日(火)	12月11日(金)
	短期大学部 食物栄養学科 幼児教育学科		11月22日(日)		
地方 学校推薦型選抜(地方試験) (指定校・一般) 【福岡市・鹿児島市・宮崎市】	現代文化学部 生活科学部 こども教育学部 短期大学部 食物栄養学科 幼児教育学科	令和8年11月2日(月)～11月6日(金)	11月14日(土)		

外国人留学生・外国にルーツを持つ生徒対象選抜選考日程

実施学部・学科	出願期間	選考日	合格発表	入学手続期限
現代文化学部 生活科学部 こども教育学部※	令和8年11月2日(月)～11月13日(金)	11月21日(土)	12月1日(火)	12月11日(金)
短期大学部 食物栄養学科 幼児教育学科		11月22日(日)		

※こども教育学部のみ外国にルーツを持つ生徒対象選抜は実施しません。

編入学選抜選考日程

実施学部・学科	出願期間	選考日	合格発表	入学手続期限
現代文化学部(第1回) 生活科学部(第1回)(社会人対象も同一日程) こども教育学部(第1回)	令和8年12月1日(火)～12月11日(金)	12月19日(土)	12月24日(木)	令和9年1月15日(金)

○本学では、Web出願と募集要項(冊子)による2通りの出願方法が利用できます。
詳細については尚絅大学・尚絅大学短期大学部ホームページをご覧ください。

後 塞	社会人になってから“時間は有限”という言葉の重みをより感じるようになった。全ての物事には期限があり、後悔しても時間が巻き戻ることはない。限られた時間の中で自身も周りも納得のいく結果を出すのはとても難しいことだが、何事も諦めず、妥協せず、挑んでいける人間でありたい。 (A.T)
--------	---

○皆様のご意見・ご感想をお寄せください。 編集・発行/尚絅学園 編集スタッフ/久野恭義、水政行弘、松野多恵子、長谷川新吾、古澤千鶴、西村奏美、有働碧依、富田礼華、藏原信博
〒862-8678 熊本市中央区九品寺2丁目6-78 TEL.096-364-0116 FAX.096-363-6520 メールアドレス koho@shokei-gakuen.ac.jp



学校法人
尚絅学園

尚絅大学 尚絅大学短期大学部
尚絅高等学校 尚絅中学校 (中高一貫)
幼保連携型認定こども園
尚絅大学附属こども園

尚絅大学・
尚絅大学
短期大学部
ホームページ

尚絅中学・
尚絅高等学校
ホームページ



礎

ISHIZUE

尚絅学園広報誌

2026年 春夏号

Vol. 45



尚絅学園キャラクター
「花くま」



こども教育学部(武蔵ヶ丘キャンパス)

Vol.45 CONTENTS

特集 学長紹介	P1
尚絅大学 尚絅大学短期大学部	P2
尚絅中学校 尚絅高等学校／尚絅大学附属こども園	P3～P4
寄附者芳名録／古本募金／新任教職員紹介	P5
令和7年度決算の概要と事業報告／令和8年度事業計画	P6～P9
INFORMATION (イベント情報)	P10
入試日程	裏表紙



尚絅学園

SHOKEI



尚絅大学・尚絅大学短期大学部 学長 坂田敦子（医学博士）



プロフィール

昭和34(1959)年佐賀県生まれ。熊本大学薬学部を卒業後、昭和59年に熊本大学大学院薬学研究科修士課程を修了(薬学修士)。平成元年に熊本大学において医学博士号を取得。

昭和59年に熊本大学医学部附属免疫医学研究施設生化学部門助手、平成4年に同医学部免疫学講座助手に就任。この間、平成7年に文部省長期在外研究員として米国テキサス大学ヘルスサイエンスセンターに留学。

平成10年に財団法人化学及血清療法研究所菊池研究所嘱託研究員、平成13年に科学技術振興事業団(JST)地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業科学技術コーディネータに就任。平成18年に尚絅大学生活科学部教授に着任し、平成26年に生活科学部長、平成27年に学長補佐(研究担当)を務め、令和7年に本学名誉教授の称号を付与される。

令和8年4月に尚絅大学・尚絅大学短期大学部学長に就任。

— 今年4月に学長に就任されました、ご心境をお聞かせください。

6年間に亘って、本学的女子教育を力強く牽引してくださいました山縣ゆり子前学長に代わって、尚絅大学・尚絅大学短期大学部の学長に就任致しました。重責ある職責に身が引き締まる想いです。少子化の影響もあり、本学も大きな変革期を迎えていますが、このような本学の大切な節目の時期に立ち会えることを嬉しく思います。本学での学びを社会に生かしたいと輝いている学生の皆さんの夢を叶えるために、豊富な教育力と経験をもつ教職員と全力で本学の教育指導に尽力したいと思っています。

— 138年の歴史を持つ尚絅学園が果たすべき役割とは

いつの時代でも専門的知識と高い人間性を有し、社会に求められる女性を育成することです。1888(明治21)年、尚絅学園の源である「済々黌附属女学校」創立以来、「智と徳を兼ね備え社会に貢献し得る女性の育成」を建学の精神に掲げ、「尚絅 表面を飾らず内面の充実に努める」という教育理念の下、1945年(終戦)以降に民主化や教育改革で女性高等教育の要望が高まり1952(昭和27)年に家政学を中心とした短期大学を、さらに1970年代、高度経済成長・大学

進学率増加を背景に1975(昭和50)年に尚絅大学を設立し、女子教育の伝統を継承しつつ、新しい時代に求められる大学・短期大学として発展を遂げてきました。現在、DX、AIを積極的に活用しながら、人を対象とした専門職(エッセンシャルワーカー)を育成し続けています。

— 学生に望むことや、励ましのお言葉をお聞かせください。

尚絅大学3学部、尚絅大学短期大学部3学科は、データサイエンスを取り入れた人文学、食と健康を支える栄養学、幼児教育・保育と特別支援教育など、人を対象とした高度な専門職人材の教育機関です。本学での学びは人のため、社会のために生かされる大きな力になっています。これからの時代を創るのは、確かな専門的知識と思いやりの心を持ち、「誰かのために一步を踏み出せる人」です。どうぞ、失敗を恐れず、色々なことに挑戦して広い視野と豊かな経験を身につけてください。いつの日か、皆さん一人ひとりが、誰かの希望や社会の光となり、次の時代を支える存在となられることを心から願っています。

坂田敦子学長の素顔に迫る

ずばり突撃!坂田学長ってこんな人!

Q. 趣味は?

A. 学生時代は、ピアノ、フルート、ヴァイオリンなどの楽器を触っていました。エッセイを読んだり、映画を観るのも好きです。

Q. 好きな言葉は?

A. 「一隅を照らす」(天台宗、最澄)。社会の片隅であっても、与えられた役割を一生懸命に果たして周囲を明るく照らす(人のために尽くす)ことが最も尊いという教えに少しでも近づきたいと思っています。

Q. 好きな季節は?

A. 10月生まれの影響なのか、やはり秋が一番好きです。やっと猛暑から解放されて、澄み切った青空に紅葉が映える季節は心身ともにワフワフします。

Q. 好きな食べ物は?

A. 料理なら和・洋・中、何でも大好き。野菜や果物はその季節の露地物の自然豊かな味を楽しみます。お菓子は洋菓子が好きですが、最近、お団子系の和菓手に手が伸びます。

Q. 休日の過ごし方は?

A. 3人の孫(4歳、6歳、8歳)と一緒に庭掃除をしたり、庭で採れた野菜や果物を一緒に料理をしています。最近は、庭のフキや三つ葉を使ったお寿司、梅ジュースなどを作りました。

Q. 学生時代に好きだった音楽や映画

A. 大学時代(1970年代)のフォークソング・ニューミュージックや、部活動の影響でチャイコフスキー(悲愴)やマーラー(巨人)など重めのクラシックが好きです。最近はジャズピアノなど軽めの音楽もよく聞いています。



尚絅大学 尚絅大学短期大学部

卒業式

令和8年3月17日(火)に令和7年度尚絅大学・尚絅大学短期大学部卒業式を熊本県立劇場演劇ホールにて挙行了いたしました。本年度は、大学生105名、短期大学部学生156名、合計261名の卒業生と、多くの保護者の皆さまが出席されました。

式典では、学業成績が優秀で品行方正な卒業生に贈られる育英褒賞の授与も行われ、推薦された5名が受賞しました。受賞者を代表して謝辞に立った卒業生は、「大学で培った力を発揮し、この賞に恥じぬよう、日々精進して参ります」と力強く述べました。

式典後は、卒業生同士や教職員との別れを惜しむ姿が見られ、それぞれが新たな一步を踏み出す決意を胸に、学び舎を後にしました。



入学式

令和8年4月6日(月)に令和8年度尚絅大学・尚絅大学短期大学部入学式を尚絅アリーナにて挙行了いたしました。真新しいスーツに身を包んだ大学生204名(編入生15名含む)、短期大学部生104名、合計308名の新入生と保護者の皆さまが出席されました。

坂田学長は、式辞で「皆さんの尚絅での4年間、または2年間で充実したものとなり、社会が求める人材として成長し、これまでの卒業生が築いてこられた尚絅の歴史を引き継がれますことを強く願っています」と期待の言葉を述べました。

式典後は、各学部・学科に分かれて入部式・入科式を行い、新入生は新たなスタートを切りました。



新入生歓迎行事

令和8年4月23日(木)、九品寺キャンパス、武蔵ヶ丘キャンパスにおいて学生会主催の新入生歓迎行事が開催されました。

当日は多くの学生が参加し、サークル紹介、クイズ&イントロドン、借り人競争、ミニ運動会、お楽しみ抽選会など、両キャンパスの学生会役員が中心となり、企画・運営を担当し、さまざまな楽しいイベントが行われました。会場は終始笑顔と歓声に包まれ、学年やクラスをこえて協力し合う場面が多く見られ、新入生同士や在学生との交流を深める貴重な機会となりました。



理想の進路実現へ!春季キャリアガイダンスを開催

令和8年2月13日(金)に九品寺キャンパスにおいて春季キャリアガイダンスを開催しました。

大学3年生と短大部1年生向けに、卒業後の理想の進路実現に向けて「熊本で働くリアル」をテーマにした講演会や、外部講師を招いた実践的な「模擬面接」を実施しました。さらに、大学1・2年生向けには「キャリア形成について」や「就活スタートアップセミナー」を実施し、早期からのキャリア意識の醸成を図りました。また、今回は「保護者のためのキャリアサポート講座」や「証明写真撮影」も実施しました。

就職支援委員会と学生課は、今後も学生一人ひとりの就職モチベーション向上と手厚い進路サポートに努めてまいります。



食育研究センター

尚絅食育の日～お魚の日～を開催しました

「食育の日(毎月19日)」の周知を図り、自らの食生活を振り返る機会として、尚絅食育の日～お魚の日～を令和8年6月19日(金)に開催しました。今回は、学食特別メニューとして、天草の郷土料理「鯛めし・がね揚げ・アオサ汁」52食を提供しました。毎年、楽しみにしている学生や教職員も多く、大好評につき即完売となりました。

この取り組みは、天草地区漁業士会からのご支援を受け、今年で8回目の開催となります。食堂前では、天草の漁業に関する展示も行い、熊本県産水産物に対する認識を深め、その良さを再発見する機会にもなりました。ご協力いただいた天草地区漁業士会・天草広域本部の皆さまに感謝申し上げます。





尚絅中学校 尚絅高等学校

高校卒業式

令和8年3月1日(日)尚絅アリーナにおいて第78回卒業証書授与式を行いました。保護者の皆様と学校関係者に見守られ、厳かで温かい雰囲気の卒業式となりました。式後は、各教室で最後のホームルームが行われ、高校生活最後の時間を友人たちや先生方と分かち合いました。卒業生171名は名残を惜しみながら学舎を旅立ちました。



中学卒業式

令和8年3月13日(金)、中学生16名の卒業証書授与式を行いました。3年前の入学式では緊張した表情を見せていた生徒たちも、この日には大きく成長した頼もしい姿で式に臨みました。校長先生から卒業証書を受け取る様子や、お世話になった方々やクラスメイトへの感謝のメッセージを伝える姿からは、中学校3年間の成長がうかがえました。互いをよく理解し支え合ってきた生徒たちの、温かな雰囲気包まれた卒業式となりました。

中学校3年間で培った経験と自信を胸に、それぞれが高校で新たな一歩を踏み出し、多くのことにチャレンジしてくれることを期待しています。



中高入学式

令和8年4月9日(木)、尚絅中学・高等学校の入学式を行いました。穏やかな空の下、新しい制服に身を包んだ新入生(高校生262名、中学生22名)が登校し、晴れやかな表情がとても印象的でした。入学式では、校長先生の入学許可宣言、式辞の後、中学生、高校生の新入生代表者がそれぞれに宣誓を行いました。合唱部の校歌等の披露により、在校生もお祝いに花を添えてくれました。式後に各教室で行われたホームルームでは、担任の自己紹介や学校生活についての説明、副教材販売などの案内があり、真剣に耳を傾けていました。



熊本城マラソンボランティア

令和8年2月15日(日)「熊本城マラソン2026」において、高校1～3年生の合わせて約100名が給水ボランティアとして参加しました。今年も平成大通り沿いにある「第1給水所」を本校が担当し、約13,000名のランナーに応援の気持ちを込めて、給水を行いました。本校の先生もランナーとして参加され、生徒たちは大きな声援を送っていました。他のランナーの方々にも喜んでいただき、生徒たちもやりがいを感じながら笑顔とエールをお届けすることができました。



野の花コンサート

令和8年6月14日(日)、「テラスハウス」(休暇村南阿蘇)において、第9回みなみ阿蘇「野の花コンサート～はなしのぶ～」が開催されました。当日はあいにくの空模様で雨も心配されましたが、本校ギター・マンドリン部をはじめとする各出演者の演奏により、どんよりとした天気を吹き飛ばすような素晴らしい演奏会となりました。ご来場いただいた皆様、そして開催にあたり多大なるご協力をいただきました関係者の皆様に、部員一同、心より御礼申し上げます。今回の経験を糧に、次なるステージに向けてさらに練習に励んでまいります。



尚絅大学附属こども園

修了証書授与式(卒園式)

令和8年3月17日(火)に令和7年度(第57回)修了証書授与式を行いました。令和7年度は、ほし組、つき組、にじ組の各クラス28名、総勢84名の園児が本園を巣立ちました。卒園児たちは各担任から一人ずつ名前を呼ばれると演壇に上がり、園長から修了証書が授与されました。「ありがとうございます」と大きな声で、修了証書を受け取っていました。

その後は、園長式辞、杉の子会会長祝辞、在園児のお祝いの歌と続き、最後は、卒園児が、園生活での四季折々の思い出を綴ったお別れの歌を大きな声で合唱し、式は滞りなく終了しました。本園での思い出を胸に、4月から20数校の小学校にわかれ、新たな一歩を踏み出します。



入園式

令和8年4月11日(土)に令和8年度の入園式を行いました。新入園児60名、昨年度途中入園児8名の合計68名の園児とその保護者が出席しました。

園長が、入園児と保護者に向けて式辞を述べました。今回は、毎年やってくるアンパンマンのほか、バイキンマンやカレーパンマン等のキャラクターが登場して、入園する園児達をお祝いしました。

その後、在園児代表のお祝いのことばや合唱、保育教諭4名の手遊び歌やハンドベルでの「チューリップ」の演奏で入園児を歓迎しました。最後に、各クラスを担当する保育教諭の紹介を行い、式は終了しました。これから、園での生活や遊び、行事等の色々な場面を通して、一人ひとりが大きく成長していく姿を見せてくれることでしょう。



芋苗植え遠足

令和8年5月14日(木)、年長組がカントリーパークに芋苗植え遠足に行きました。

苗の植え方や品種を聞いた後、穴をあける竹棒を受け取り一人6本程度の苗を植えました。植え終わった後、係の方から「品種は何だったかな」と尋ねられると園児たちは「べにはるか!」としっかりと答えていました。10月の収穫が楽しみです。

苗植え後は、おうちの方から作ってもらった愛情たっぷりのおにぎりを食べ、鬼ごっこなどをして遊びました。最後はバラ園のバラの花を観たり匂いを嗅いだりしてカントリーパークをあとにしました。楽しい一日となりました。



火災の避難訓練

こども園では、毎月1回、避難訓練を実施しています。4月に入園した園児も回数を重ねるうちに、先生の誘導に従って速やかに、そして静かに避難ができるようになっていきます。避難するときは合言葉の「おはしも」(押さない、走らない、しゃべらない、戻らない)をしっかりと守って、避難しています。

毎年2回は、近隣の菊池広域連合桜消防署にお願いして、消防士さんに園児達の避難する様子の講評や、教職員には初期消火の際の消火器の使い方のご指導をいただいています。また、年少組以上は、消防車を見学したり、お借りしたDVDで火災について学んでいます。





「尚絅学園みらい募金」

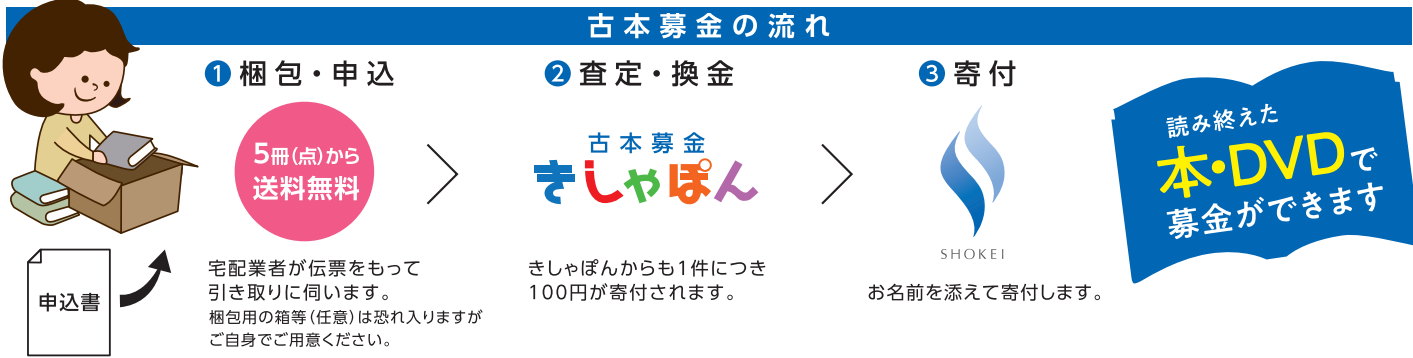
～奨学資金および教育研究振興の充実のための募金～の報告とお願い

寄附者芳名録				令和7年12月1日～令和8年4月30日現在	
ご寄附をいただきました方々のご協力に感謝し、ご芳名を掲載させていただきます。					
寄 附 金 内 訳					
個人・法人・企業等 3件 / ￥3,300,000		現旧 役員・教職員 1件 / ￥100,000		合計 4件 / ￥3,400,000	
卒業生・現旧役員・教職員・個人・法人・企業 (順不同)					
光多制服株式会社様		尚絅学園後援会様		坂本 勝様	
				坂田 敦子様	

「尚絅学園古本募金」

「尚絅学園古本募金」は、取引集荷・査定換金・募金送金の運営を「古本基金きしゃぽん」(運営:嵯峨野株式会社)に委託して実施しています。皆様からのご支援をお待ちしております。

尚絅学園古本募金状況について			
令和7年12月1日～令和8年4月30日現在			
ご寄附をいただきました方々のご協力に感謝し、寄附金状況をご報告させていただきます。			
寄 附 金 内 訳			
個人・法人・企業等 6件 / ￥2,124	現旧 役員・教職員 0件	合計 6件 / ￥2,124	



〈WEBで申込み〉 **尚絅学園 古本募金** **Q** 〈電話で申込み〉 ☎ **0120-29-7000**

Kishapon.com/shokei-gakuen/ (受付)24時間・365日 オペレーターに団体ID **172** とお伝えください。(受付)9時～18時・365日

新任教職員紹介

(令和8年3月1日～4月1日着任)

■尚絅大学生生活科学部／栄養科学科
富永 美保(准教授)

■尚絅中学・高等学校
佐渡 正英(講師)
澤村 宙夢(講師)
松下 あゆみ(講師)
宮本 朋加(講師)
森若 健太(講師)
小田 和也(教諭(小中連携・地域連携担当))

■尚絅大学・尚絅大学短期大学部／
九品寺キャンパス
中原 敏之(総務課長補佐)
神田 萌花(職員)
富田 礼華(職員)
浦田 帆乃果(職員)
西 未智瑠(職員)
松富 文夫(職員)
浦野 隆義(守衛)

■尚絅大学附属こども園
泉田 誠吾(運転手)

※順不同・敬称略

学校法人尚絅学園 令和7年度決算の概要

1. 決算の概要

学校法人尚絅学園の令和7年度決算は、令和8年6月15日開催の理事会において承認・議決され、令和8年6月22日開催の定時評議員会に報告されました。また、監事及び会計監査人の承認を得ております。以下、その内容についてご説明いたします。

(1)貸借対照表 貸借対照表は、一定時点(決算日)における資産、負債、基本金の内容と在高を明示して、学校法人の財政状況を明らかにしています。

貸借対照表 令和8年3月31日

資産の部				(単位:百万円)				負債の部				(単位:百万円)			
科 目		本年度末	前年度末	増 減	科 目		本年度末	前年度末	増 減	科 目		本年度末	前年度末	増 減	
固定資産		8,635	9,009	△ 374	固定負債		1,302	1,329	△ 27	第1号基本金		15,095	15,068	27	
有形固定資産		7,780	8,171	△ 391	長期借入金		967	1,022	△ 55	第3号基本金		177	177	0	
土地		1,021	1,021	0	退職給与引当金		310	302	8	第4号基本金		181	181	0	
建物		5,195	5,515	△ 320	長期未払金		4	5	△ 1	基本金の部合計		15,453	15,426	27	
構築物		297	333	△ 36	役員退職金引当金		21	0	21	翌年度繰越収支差額		△ 8,236	△ 7,619	△ 617	
教育研究用機器備品		296	331	△ 35	流動負債		626	522	104	繰越収支差額の部合計		△ 8,236	△ 7,619	△ 617	
管理用機器備品		31	35	△ 4	短期借入金		56	56	0	純資産の部合計		7,217	7,807	△ 590	
図書		940	936	4	未払金		31	35	△ 4	負債及び純資産の部合計		9,145	9,658	△ 513	
車両		0	0	0	前受金		331	327	4	科 目		本年度末	前年度末	増 減	
建設仮勘定		0	0	0	預り金		176	105	71	第1号基本金		15,095	15,068	27	
その他の固定資産他		855	839	16	賞与引当金		34	0	34	第3号基本金		177	177	0	
有価証券		20	20	0	負債の部合計		1,928	1,851	77	第4号基本金		181	181	0	
退職給与引当特定資産		300	300	0	純資産の部					基本金の部合計		15,453	15,426	27	
減価償却引当特定資産		100	100	0	科 目		本年度末	前年度末	増 減	翌年度繰越収支差額		△ 8,236	△ 7,619	△ 617	
施設設備引当特定資産		226	226	0	第1号基本金		15,095	15,068	27	繰越収支差額の部合計		△ 8,236	△ 7,619	△ 617	
第3号基本金引当特定資産		178	177	1	第3号基本金		177	177	0	純資産の部合計		7,217	7,807	△ 590	
教育活動寄附金引当特定資産		20	12	8	第4号基本金		181	181	0	負債及び純資産の部合計		9,145	9,658	△ 513	
流動資産		510	649	△ 139	基本金の部合計		15,453	15,426	27	科 目		本年度末	前年度末	増 減	
現金預金		382	453	△ 71	翌年度繰越収支差額		△ 8,236	△ 7,619	△ 617	負債及び純資産の部合計		9,145	9,658	△ 513	
未収入金		91	163	△ 72	繰越収支差額の部合計		△ 8,236	△ 7,619	△ 617	科 目		本年度末	前年度末	増 減	
有価証券		0	0	0	純資産の部合計		7,217	7,807	△ 590	負債及び純資産の部合計		9,145	9,658	△ 513	
仮払金他		37	33	4	負債及び純資産の部合計		9,145	9,658	△ 513	科 目		本年度末	前年度末	増 減	
資産の部合計		9,145	9,658	△ 513	負債及び純資産の部合計		9,145	9,658	△ 513	科 目		本年度末	前年度末	増 減	

令和7年度末における固定資産(土地・建物・機器備品・特定資産他)と流動資産(現金預金・未収入金他)を合わせた資産の部合計は9,145百万円、建物・教育研究用機器備品の償却等や現金預金の減少により、前年度末と比べて513百万円減少しました。

一方、長期未払金等の固定負債と前受金及び未払金等の流動負債の合計額は1,928百万円となり、前年度末と比べて77万円増加しました。これは新会計基準における役員退職金引当金と賞与引当金を新たに計上したことが主な要因です。

(2)事業活動収支計算書 事業活動収支計算書は、当該年度の事業活動収入と事業活動支出の内容、収支状況を明らかにして、学校法人の経営状況を示しています。

事業活動収支計算書要約 令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

事業活動収入の部				(単位:百万円)				事業活動支出の部				(単位:百万円)			
令和7年度	前年度	増 減	令和7年度	前年度	増 減	令和7年度	前年度	増 減	令和7年度	前年度	増 減	令和7年度	前年度	増 減	令和7年度
(教育活動収入計)	(2,137)	(2,198)	(△ 61)	(教育活動支出計)	(2,672)	(2,652)	(20)	(教育活動支出計)	(2,672)	(2,652)	(20)	(教育活動支出計)	(2,672)	(2,652)	(20)
学生生徒等納付金	1,210	1,273	△ 63	人件費	1,513	1,582	△ 69	人件費	1,513	1,582	△ 69	人件費	1,513	1,582	△ 69
手数料	18	18	0	教育研究経費	939	869	70	教育研究経費	939	869	70	教育研究経費	939	869	70
寄付金	10	7	3	[内奨学費]	(289)	(182)	(107)	[内奨学費]	(289)	(182)	(107)	[内奨学費]	(289)	(182)	(107)
経常費等補助金	835	775	60	[内減価償却費]	(391)	(416)	(△ 25)	[内減価償却費]	(391)	(416)	(△ 25)	[内減価償却費]	(391)	(416)	(△ 25)
付随事業収入	1	1	0	管理経費	220	201	19	管理経費	220	201	19	管理経費	220	201	19
雑収入	64	124	△ 60	[内減価償却費]	(25)	(28)	(△ 3)	[内減価償却費]	(25)	(28)	(△ 3)	[内減価償却費]	(25)	(28)	(△ 3)
(教育活動外収入計)	(1)	(0)	(1)	(教育活動外支出計)	(9)	(8)	(1)	(教育活動外支出計)	(9)	(8)	(1)	(教育活動外支出計)	(9)	(8)	(1)
受取利息・配当金	1	0	1	借入金等利息	9	8	1	借入金等利息	9	8	1	借入金等利息	9	8	1
(特別収入計)	(3)	(9)	(△ 6)	(特別支出計)	(50)	(0)	(50)	(特別支出計)	(50)	(0)	(50)	(特別支出計)	(50)	(0)	(50)
現物寄付等	3	9	△ 6	資産処分差額	0	0	0	資産処分差額	0	0	0	資産処分差額	0	0	0
事業活動収入計	2,141	2,208	△ 67	その他の特別支出	50	0	50	その他の特別支出	50	0	50	その他の特別支出	50	0	50

事業活動収支計算書の収入の部において、学生生徒等納付金収入は1,210百万円となり、前年度比63百万円減少しました。また、補助金収入として835百万円を計上し、前年度比60百万円増加しました。

学生生徒納付金収入の減少は学生・生徒・園児の在籍数が前年度より72名減少によるものです。これは総合生活学科の募集停止に伴う学生数の減少が主な要因です。補助金収入における増加要因は、高等教育修学支援制度の見直しによる支援拡大によるもの、雑収入の減少要因は、保険対象となる落雷被害等が減少したことによるものです。

支出の部では、人件費支出は1,513百万円であり、前年度比69百万円減少しました。教育研究経費支出は939百万円で前年度比70百万円増加、管理経費支出は220百万円で前年度比19百万円増加しました。

人件費支出における減少要因は、主に退職金の減少(退職者減)によるものです。また、教育研究経費の増加要因は、光熱水費(電気代単価の値上がり)と奨学費(高等教育修学支援金)、管理経費の増加要因は、報酬委託手数料(学生食堂支出超過額補填)と広報費(活動拡大)と補助活動費(ドミー熊本寮の法人契約部屋数増加)によるものです。また、特別支出の50百万円の増加要因は、その他の特別支出(新会計基準における役員退職金引当金と賞与引当金の特別繰入)によるものです。

この結果、教育活動収支差額は△535百万円となり、前年度比81百万円悪化しました。同様に基本金組入前当年度収支差額は△590百万円となり、前年度比△138百万円悪化しました。



令和7年度決算の概要と事業報告

- (3)資金収支計算書 資金収支計算書は、当該年度の研究活動に対応するすべての資金の収入及び支出の内容を明らかにして、支払資金の収入及び支出の顚末を明らかにしています。

資金収支計算書要約 令和7年4月1日から令和8年3月31日まで (単位:百万円)

資金収入の部	令和7年度	前年度	増 減	資金支出の部	令和7年度	前年度	増 減
学生生徒等納付金収入	1,210	1,273	△ 63	人件費支出	1,501	1,576	△ 75
手数料収入	18	18	0	教育研究経費支出	547	453	94
寄付金収入	10	7	3	管理経費支出	182	160	22
補助金収入	835	775	60	借入金等利息支出	9	8	1
資産運用収入	0	0	0	借入金等返済支出	56	56	0
資産売却収入	0	9	△ 9	施設関係支出	12	10	2
付随事業収入	1	1	0	設備関係支出	24	28	△ 4
雑収入	64	124	△ 60	資産運用支出	9	6	3
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	64	60	4
前受金収入	331	327	4	資金支出調整勘定	△ 47	△ 58	11
その他の収入	234	189	45	支出の部小計	2,357	2,299	58
資金収入調整勘定	△ 417	△ 552	135				
前年度繰越支払資金	453	581	△ 128	次年度繰越支払資金	382	453	△ 71
収入の部合計	2,739	2,753	△ 14	支出の部合計	2,739	2,753	△ 14

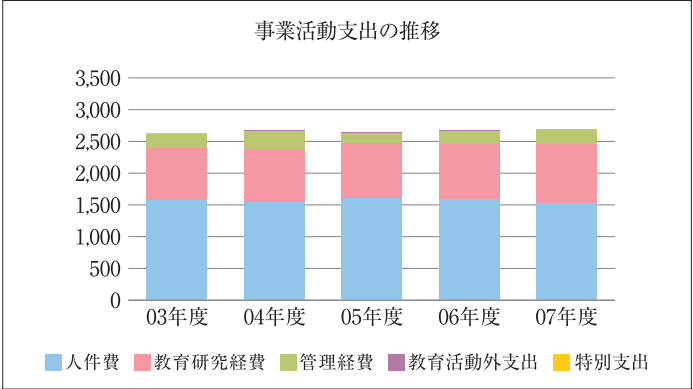
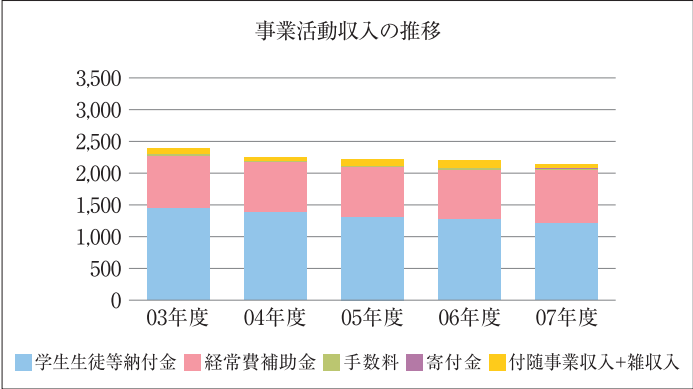
資金収支計算書の収入の部、支出の部について、事業活動収支計算書の収入の部、支出の部と同様の項目が多く含まれています。収入の部において、学生生徒納付金と雑収入の減少及び経常費等補助金の増加、またその他の収入の前期末末収入金(退職金交付金と施設型給付費)の増加を主要因とし、前年度比14百万円減少しました。

支出の部では、教育研究経費と管理経費の増加を主要因とし、その中でも、特に高等教育修学支援の為の奨学金費の増加により、前年度比58百万円増加しました。

以上の結果により、次年度繰越金は382百万円となり前年度比71百万円減少しました。

事業活動収支の推移 (単位:百万円)

収入の部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学生生徒等納付金	1,443	1,380	1,308	1,273	1,210
経常費補助金	826	786	775	775	835
手数料	20	20	18	18	18
寄付金	2	2	9	7	10
付随事業収入+雑収入	106	62	103	125	65
事業活動収入計	2,413	2,260	2,218	2,208	2,141
基本金組入額合計	0	△ 554	△ 38	△ 5	△ 55
支出の部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費	1,560	1,532	1,602	1,582	1,513
教育研究経費	826	820	855	862	939
管理経費	208	299	163	201	220
教育活動外支出	4	6	8	8	(9)
特別支出	27	5	0	0	(50)
事業活動支出計	2,625	2,662	2,629	2,661	2,672
基本金取崩額	147	0	0	0	28



2. 事業の概要

学校法人 尚綱学園

- (1)ガバナンス
①寄附行為(令和7年4月改正)に基づき、「学校法人尚綱学園理事選任機関運営規程」及び「学校法人尚綱学園評議員選任・解任規程」を制定した。
②理事長、常務理事、学長、校長及び学園事務局長を構成員とし、必要に応じて大学事務局長及び園長が出席する常勤理事会を原則隔週で開催した。重要事項の協議・検討及び意思決定を適切に行うとともに、業務遂行状況の把握を行った。
③「令和7年度危機管理プログラム」に基づき、こども園においては毎月1回避難訓練を実施するとともに、大学・短大・中高においては令和7年10月に両キャンパスで避難訓練(実動訓練)を実施した。
- (2)財政
①第二期中長期計画の改定に合わせ、中期財務計画の改定を行った。
②令和6年度決算状況の共有を図るとともに、設置校別・部門別の収支状況および損益分岐点となる学生・生徒・園児数を分析し、その結果をSD研修において教職員へ周知した。
- (3)人事
①令和7年4月に組織改革を実施し、効率的な事務組織への再編を行った。
②令和7年5月19日からポータルサイト、勤怠管理システム、給与明細の電子配信の運用等を開始し、DXや働き方改革を推進した。
③大学・短大における教員のプログラムに対する責任の明確化及び教育の質の向上を目的とした「基幹教員制度」の導入を検討した。
- (4)施設設備
①武蔵ヶ丘キャンパス遊休土地について、売却先業者による開発申請手続きを進めてきたが、開発許可には至らなかった。
- (5)同窓会・後援会・地域との連携
①7月11日から13日にかけて、中高文化祭、尚綱祭(九品寺キャンパス)及びホームカミングデイを同時開催し、同窓会との交流及び連携強化を図った。
②後援会の支援として、設置校の各サークル、部活動及び同好会に対し、課外活動支援金が交付された。

尚綱大学・尚綱大学短期大学部

- (1)教育と学修の充実
①建学の精神、教育理念に基づく自校教育の推進のために、大学・短大の全学科において自校教育の授業を実施し、受講生に理解度アンケート調査を実施した(理解度:大学99.8%、短大99.5%)。その調査結果と学習効果について学科会議及び教務連絡協議会等で検証を行うとともに全学で共有した。
②教育方法及び教育体制の継続的な点検・改善を図るために、学科会議及び教務連絡協議会等で3つのポリシーの点検及び必要に応じた改善を行った。また、教育課程及び学修成果の点検のために、可視化した学修成果や授業改善アンケート結果について学科会議及び教務連絡協議会等で検証を行った。
③令和8年度に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」申請のため、教育内容の点検及び科目の必修化等の対策を行った。
- (2)学生確保
①併設高校の文化祭、大学の学園祭とオープンキャンパスを同時開催することで、オープンキャンパスに参加しない新たな層に本学の魅力を伝えることができた。
②総合型選抜<第1回>エントリー方式の受付期間の延長と提出書類の簡素化を行った。また、総合型選抜<第2回>に学科特色方式・体験授業方式・事前課題型方式を導入したことで、出願増に繋がった。
③現代文化学部において、入学定員を75名から65名に削減した。また、令和8年度からは、データサイエンスの知識や技能を学習基盤とし、文化研究や日本語・日本文学などの人文領域を学ぶことにより、現代社会における多様な課題の解決に取り組むことができる「文系デジタル人」の育成をするカリキュラムに変更した。
- (3)学修環境の整備
①九品寺キャンパスでは、既存設備の定期的な点検及び劣化した設備等の更新として、大学図書館の空調機並びに1号館7階空調機の大規模工事を行うとともに2号館3階の床の張替え工事を行った。
- (4)学生支援の充実
①学生生活における学生満足度については、「学生生活に関する実態調査」「疲労蓄積度調査」など各種アンケート調査の結果を学部学科に還元し、その調査・分析結果を全学委員会等で共有した。
②特別な配慮を必要とする学生については、学生からの支援申請に基づき、学部学科と協議を行い、障害等の状況に応じた支援を行った。家計急変等に伴う経済的な問題については、奨学金の申請や納付時期の相談等、個別事案毎に対応した。
③キャリア支援・就職支援については、夏季キャリアガイダンスでは、就職年次(大学3年次・短大1年次)向けのプログラムに加え、就職年次以外(大学1・2年次)向けの講座を実施し、早期からの就職意識の醸成を図った。春季キャリアガイダンスでは、就職年次の保護者を対象とした説明会を開催し、保護者の意向を踏まえた就職指導を実施した。また、職種・分野別の就職懇談会を開催し、参加した事業所から有意義な取組であったとの評価を得た。
④インターンシップについては、大学コンソーシアム熊本主催のインターンシップに参加し、夏季には16先の事業所に22名(大学12名、短大10名)、春季には6先の事業所に11名(大学8名、短大3名)が参加した。
⑤令和7年度卒業生の就職率は、大学95.2%、短大97.9%であった。
- (5)研究力の強化
①科学研究費等競争的研究費に関する情報書類の閲覧・掲示にて随時行っている。科研費の説明・書き方について今年度の変更点を中心に動画配信を行った。本年度の科研費(9月締切分)の申請件数が30件となり、昨年度の28件から増加した。
②子育て研究センターでは、乳幼児保育研究会の定例開催、附属こども園との連携による出前講座、第24回公開シンポジウム、第11回保育実践講演会を実施した。
③論文を各ページの上部に記載し、レイアウトの見直しを行い、子育て研究センター紀要の「見やらい」第22巻を発行した。
- (6)社会連携の拡充
①地域連携推進センターでは、継続及び新規の地域連携事業を推進するとともに、令和7年10月にイギリスのマンチェスターで開催されたIPBA(International Place Branding Association)において、「くまモン学」の研究報告を行った。
②子育て研究センターでは、乳幼児保育研究会、保育Café、子育てCaféの定例開催、第24回公開シンポジウム等の実施を通じて、熊本の保育・子育ての向上に寄与した。
③生活科学部1年生を中心とした学生が、「城下町くまもと七宝まつり」で体験型ブースを出し、500名を超える子供達や保護者の参加で街の賑わい創出に貢献した。
- (7)国際交流の推進
①協定校と連携し、慈恵大学(台湾)、高雄大学(台湾)、上海杉達学院(中国)、仁徳大学校(韓国)との交換留学をはじめとする交流活動を実施した。短期語学留学(受入、日本語)においては過去2番に多い13名を受け入れた。
②マレーシア・台湾への短期語学研修を実施した。
③グローバルへの意識づけのため、積極的にグローバルラウンジを活用したイベントを行い、昨年度より利用実績が増加した。
- (8)内部質保証
①令和6年度認証評価及び令和7年度外部評価委員会からの指摘事項に対する改善策を検討し、取り組んだ。
②IRを活用した調査データの可視化と学内共有を図るため、「大学IR支援サイト」「SD・FD研修サイト」に掲載し、教職員間の情報共有を促進した。

尚綱中学校・高等学校

- (1)教育の質向上
①全校生徒の英語力向上という数値目標は達成できなかったものの、英語ディベートでは、中高一貫コースの高2生徒が10月の熊本大会で優勝し、12月の第20回全国高校生英語ディベート記念大会in埼玉に出場した。
②国際交流の一環として、6月にアメリカ・デンバーからの訪問団生徒12名、引率3名を受け入れ、剣道・書道の体験とESS部との交流会を実施した。9月に姉妹校の韓国・鶴城女子中学校の生徒と本校生徒9名がオンラインで交流し、11月に中国・蘇州からの訪問団生徒16名、引率者3名を受け入れ、授業体験と部活動体験を実施した。
③7月に熊本県のグローバルジュニアドリム事業に高1の生徒1名が参加し、台湾を訪問した。8月にニュージーランド語学研修に中学4名、高校9名が参加し、オネウェロエリアスクールで研修を実施した。また、11月より4ヶ月間、中2生徒1名がオーストラリアに語学留学した。
- (2)品性があり社会に貢献し得る生徒の育成
①教科横断的な表現力の育成を目的として、中学校はビブリオバトル、英語でプレゼン、国語でスピーチ、短歌の発表会等の活動を実施した。また、中高生新聞への投稿、こどもの詩や水の作文等のコンクールに参加し、数多くの入賞を果たした。高校ではディベート甲子園、英語ディベート全国大会に出場した。
②総合進学コースからの尚綱大学・尚綱大学短期大学部への進学率は目標の40%を下回り35%であった。また、特別進学コース、中高一貫コースにおける国公立大学及び難関私立大学への合格者数は目標の15名を下回り12名となり、達成率は80%であった。
③学校評価に関わる生徒・保護者アンケートの「進路指導が適切に行われている」の肯定評価は生徒86%、保護者76%であり、目標値の80%以上は達成できなかった。
- (3)生徒支援の充実
①高校では、国の就学支援金制度の変更に伴い、特技特待制度や特待内容等を学園と協議の上変更した。
②生徒支援体制を充実させるため、本年度から特別支援教育コーディネーターを指名し、学校内外の関係者との連絡調整、相談窓口としての役割を担わせた。また、支援が必要な生徒に対する過不足のない指導・支援を実施するため、スクールカウンセラーを中心とした生徒情報共有会議と特別支援校内委員会をそれぞれ2回開催した。
③自立した生徒会活動を実践するために、文化祭やクラスマッチにおいて、生徒主体でのルール等を設定して準備、運営を行った。また、7月に尚綱大学・尚綱大学短期大学部との合同文化祭を開催し、過去最高の来場者を得た。
- (4)地域貢献の推進
①マチノガッコウ2025、熊本城マラソン、フードバンク熊本のボランティア活動に加え、地域自治体等から依頼されたイベントに、和装礼法部、ギターマンドリン部、吹奏楽部、合唱部、バントワリング部が出演した。
②地域自治会等と連携した環境美化はできなかったが、バレーボール部の生徒らが8月の大雨により被害の大きかった上天草市に向かい、地区の公民館等の清掃のボランティア活動を実施した。また、日本財団が推進する海洋ごみ対策事業の一つである「スズメGOMI甲子園2025熊本大会」に昨年に続き参加した。
③小中学生対象の第23回尚綱英語暗唱大会を9月6日に開催した。また、中高一貫コース高2の探究活動において、NPO法人「せいば」と連携して、マウイの小学校の給食支援のためのコーヒーの街頭販売を下通樂会の協力を得て2月に実施した。
- (5)個性豊かな生徒の確保
①在籍生徒の実態から、訪問学校の地域見直しと、管理職と職員が訪問する学校の区別化を図り、1学期は全教職員、2学期は管理職で学校訪問を行った。令和8年度の入学者数は、中学校が22名と目標の30名には及ばなかったが、高校は262名と目標の220名を大幅に上回った。
②中学校部活動における外部指導者の導入や、スポーツ活動をクラブチームで行う生徒も多くなっていることから、各大会の視察を通じて情報を収集した。また、特技特待生の勧誘では特別進学コースへの入学を希望する生徒もおり、特技特待生の制度を見直すこととなった。
③校則の見直しを生徒会が中心となり検討を始めた。制服・指定用品については、生徒指導部を中心に、指定用品の見直しを実施した。本年度導入したボロシャツと夏用・冬用のスラックスは、生徒から好評を得た。

尚綱大学附属こども園

- (1)子どもの健やかな成長のための教育・保育の充実
①園の環境を活用し園児の発達や興味、季節等を配慮して教育・保育を計画的かつ創造的に実践することができた。特に、年長児による自分たちで育て、収穫した大根のバザーでの販売や、「食に関する活動」は、試食体験等、保護者から高い評価を得た。
②令和8年度県私立幼稚園連合会県大会及び九州地区大会問題提起園として、大学・短大と連携した園内研修を実施したり、授業への参加、講話への招聘等を通して研修の充実を図った。
③DX化の推進では、ICT支援システム「コドモン」導入3年目となり、園児の出欠管理やバス運行状況、お知らせ、写真による怪我の状況報告、ドキュメンテーション機能の活用などの利用を通して、保護者とのコミュニケーションが以前より円滑になった。
④小学校に見直しをもって入学できるように、ひらがな・かず・英語遊びや近隣小学校1・2年生と年長児の交流を実施した。
- (2)子育て支援の充実
①在園児保護者への支援は、「子育て相談会」「お誕生会」「おしゃべりカフェ」「親と子のつどい」などが好評だった。
②子育て支援ルーム「どんぐり」の活動では、制作やリトミック、知育ヨガ、講話など様々な活動を準備し、参加者からはとても好評だった。
- (3)次世代保育者の養成
①大学(子ども教育学部)・短期大学部との実習連絡会などで実習生の情報共有や「実習のしおり」を通して実習の指導内容の共通理解に努め、実習生にとって充実した教育実習につながったと考える。
②「運動能力測定」を大学と連携して行ったり、幼児教育学科の授業の一環として絵本の読み聞かせやストレッチ体操などの活動を行ったりして、学生の教育・保育力向上に寄与することができた。
③高校生、幼児教育学科、大学生の教育実習、自主実習だけでなく、中学生の保育体験なども積極的に受け入れ、附属園としての役割を果たすことができたと考える。
- (4)自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児の確保
①令和8年度の募集では3歳1号園児が減少し、年少クラスを1クラス減にすることになったが、公定価格の引き上げもあり、収支の均衡はおおよそ保つことができた。
②収支均衡を実現するためにも定員の見直しへの対応が必要となり、現在押し進めているところである。令和8年度より1号の利用定員の見直しを行い、従来の1号200名を170名にすることが決定している。令和7年度4月1日時は、261名だったが、次年度同日は243名の予定である。
③尚綱学園HP「お知らせ欄」等で、本園の魅力や園児達の姿の情報提供を積極的に行った。



令和8年度 学校法人尚絅学園事業計画書

I.はじめに

尚絅学園は、令和5年度から10年間の「第二期中長期計画」を策定し、学園の現状と課題、学園を取り巻く環境の変化や今後の方向性を踏まえた本学園の目指すべき姿(ビジョン)を掲げ、ビジョン達成のために新たなスタートを切りました。「第二期中長期計画」では、設置校の存続を前提に、学生・生徒の確保を最優先の課題として計画を策定しましたが、3年間の計画期間を終え、想定以上の社会環境の急激な変化により、大学・短大の学生数減少に歯止めがかからない状況となっています。

この現状を踏まえ、令和7年2月に「尚絅大学短期大学部総合生活学科の令和8年度以降の募集停止」及び「尚絅大学現代文化学部の入学生定員削減と教育内容の抜本的な見直し」を決定し、令和7年8月に中長期計画の改定、加えて経営改善計画の策定を行いました。

令和8年度においては、改定した中長期計画および経営改善計画に則り、事業運営を行うことに加え、上述の大きな改革にしっかりと対応することが重要です。

II.主な施策

1.学園全体・学校法人

- 本学園が教育研究機関として社会の要請に応え、学生・生徒等が充実した学校生活を過ごすためには、経営力の強化による安定的かつ強固な財務基盤の構築、人材育成の強化、施設設備及び教育・研究環境の整備が必要不可欠で、改定した中長期計画および経営改善計画を指針とし、さらなる向上を図ります。
- ガバナンス
経営の規律と誠実性を維持しつつ、「建学の精神」「教育理念」に則った教育を実現するための体制整備に努め、管理部門と教学部門の円滑な意思疎通と連携を図るとともに、相互チェックを適切に機能させます。また、人権・安全へ配慮した危機管理体制及びSDGsへの取り組みを強化します。
 - 財政
中長期計画に基づく適切な財務運営を確立し、安定した財務基盤のもと収支バランスの均衡に努めます。
 - 人事
各設置校の使命・目的に則し、財政状況を踏まえた適正な人員配置と、公正・公平で納得感のある人事評価の確立と適正な処遇の実現に努めます。また、適切な人事管理・労務管理体制を確立し、教職員の資質・能力の向上と職能開発を実施します。
 - 施設設備
外部環境の変化に対応した教育・研究環境の整備と適切な運営・管理を実現します。
 - 同窓会・後援会・地域との連携
同窓会、後援会および地域との連携強化に努め、各設置校の発展に寄与する活動を支援します。

2.尚絅大学・尚絅大学短期大学部

本学における最大の課題は学生確保です。18歳人口の減少や共学・四年制大学志向が見られる中、短期大学部においては定員未充足が続いていた総合生活学科の学生募集の停止を、また、大学においては現代文化学部の入学生定員数削減(75人から65人へ削減)と、新カリキュラムの見直し(再編)を行いました。これらの決定は、教育機関としての規模の縮小ではなく、経営基盤の安定化と、教育の質の向上を図るための積極的な施策です。

また、現代文化学部では「文系デジタル人」の育成を柱とした新カリキュラムを基にした授業を開始します。データサイエンスと人文学を融合させた教育を展開することで、現代社会の課題解決に貢献できる新たな女性像を提示し、志願者数の回復と定員充足を図ります。また、本年度完成年度を迎える「こども教育学部」においては、特別支援教育の強みを活かした専門職養成のアピールと共に、自治体(熊本県)との共同事業による中高生等を対象とした幼児教育・保育志望者の養成事業など多角的な広報活動を行うことにより、来年度以降の入学生定員の充足を目指します。

2023年度にスタートした「第二期中長期計画」は、本年度で4年目を迎えます。これまでに築いてきた「食」や「子育て」分野での強み、さらには地域連携や国際交流の実績を礎としつつ、本年度は学修成果のさらなる可視化の充実と活用、並びに、社会的ニーズに応える教育課程の不断の改善に注力します。また、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」の申請に向けた体制整備を完了させ、全学的なDX教育の基盤を確立します。

教育の質保証については、令和6年度に受審した日本高等教育評価機構による認証評価の結果を真摯に受け止め、指摘事項に対する改善を着実に実行してまいります。全学部・学科においてPDCAサイクルを実効性のあるものへと進化させ、学生一人ひとりの成長を支える教育環境を構築します。

「智と徳を兼ね備え社会に貢献し得る女性の育成」という建学の精神、そして「表面を飾らず内面の充実に努める」という教育理念のもと、本学は、地域に根差し、社会から信頼され支持される女子総合学園として、教職員が協働し、困難な時代を切り拓き、さらなる発展を目指します。

3.尚絅中学・高等学校

少子化、そして受験生の男女共学志向が根強く続いている中、全教職員と管理職のみで実施する学校訪問の差別化、学校ホームページや学校案内パンフレットの改善等を行ったこともあり、令和6年度入試から高等学校の志願者数・入学者数は改善傾向にあります。しかし、今後も安定した学校経営・運営、そして生徒たちの学びを保障するためには、令和8年度からの入学生を第二期中長期計画の達成をより確実なものにするために策定された経営改善計画2025の人員計画のとおり確保することが必要です。

また、これからの生徒たちは予測困難な時代を生きなければなりません。その時代を生徒たちが自分らしく生きていくためには本学園の建学の精神の実現が必要です。令和8年度はその実現のため、各コースにおける学びの更なる魅力化と発展を図り、尚絅大学・尚絅大学短期大学部との連携による教育力の向上に取り組みます。なお、第二期中長期計画(2025年8月改定)に則ったアクションプランに対する重点施策及び具体策は以下のとおりです。

- (1)「教育の質向上」
各教員のもつ専門性やDX推進を最大限に利用した各コースの新たな魅力づくりに取り組みます。
- (2)「品性があり社会に貢献し得る生徒の育成」
生徒たちが社会に貢献し自分らしく生きていくためには、生徒の自己認識と問題解決能力を深めることが重要であるため、教科の枠を超えた探究学習の充実に取り組みます。
- (3)「生徒支援の充実」
職員間の情報共有とスクールカウンセラーと連携した組織的な支援を行い、生徒の心理的安定性、キャリア観の形成、心身の健康の保持増進に取り組みます。
- (4)「地域貢献の推進」
地域に開かれた学校としてボランティア活動や地域行事へ参加し、社会のニーズに応じて環境活動や地域社会に積極的に参加する生徒の育成に取り組みます。
- (5)「個性豊かな生徒の獲得」
尚絅学園としての中学校・高等学校の魅力を尚絅大学・尚絅大学短期大学部と連携して見出し、内部進学を希望する生徒の募集に取り組みます。

4.尚絅大学附属こども園

附属こども園では、「認定こども園教育・保育要領」等3法令の改訂等の趣旨を受け、教育・保育の目標達成をめざし「尚絅らしさ」を生かした改善・充実に努めるとともに、在園児保護者と地域保護者の支援に努めるという2つの目的の達成による社会貢献に努めています。

まず、教育・保育です。「全体的な計画(教育課程)」をもとに、「子どもの発育にふさわしい自然の風情をそのままに生かし、環境の構成(教育的な意図)を創造し、子どもの健やかな成長をめざす」ことを目標に、「尚絅らしさ」を「自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児」として、全教職員が質の高い、温かい愛情に満ちた教育・保育を推進します。今年度は県私立幼稚園連合会県大会及び九州地区大会問題提起園になり、それに向けて、園児主体の実践を展開していきます。また小学校への円滑な連携を図ることも進めていきます。さらに広報誌やHP欄の充実、地域社会や自治体・市町教委、小・中学校、諸機関との連携、学校評価を生かした教育・保育の改善にも取り組みます。

次に、保護者支援です。日頃の教育・保育の充実やPTA(杉の子会)との協力と共に、在園児保護者にも地域保護者にとっても安心できる子育て支援を「子育て相談会」や「どんぐりルーム」等で推進しています。ここ数年、特別な支援を必要とする園児や援助・配慮を要する保護者の増加に伴い、園児の安全性の確保や発達特性に応じた教育・保育の対応力の向上、療育施設との連携、協力、保護者の相談事業等をはじめ、保育者数の確保や研修が急務となっていますが、保育者の常時確保が難しく決して安全な教育・保育が保障されているとは言えない状況も見られます。また、園児の命と安全を守るために、子育てに不安や困り感をおもちの保護者、DVや児童虐待事案等に対して、行政機関・小学校・療育施設・児童相談所・警察等との連携・協力による支援を実施しています。喫緊の課題は、収支均衡のための園児の確保です。周辺市町は海外からの進出企業の影響もあり数年は少子化の影響は少ないと見られていましたが、令和8年度の募集では3歳1号園児が減少し、年少クラスを1クラス減にすることになりました。近年1号園児数を確保するために様々な取り組みを行ってきました。今年度も保護者の声や近隣の状況に注視しながら対応策を進めていきます。また収支均衡を実現するためにも定員の見直しの対応が必要となり、現在押し進めているところです。令和8年度より1号の利用定員の見直しを行い、従来の1号200名を170名とする予定です。今後も少子化により園児数の減少が続いていくことが予想されるため順次利用定員の見直し(減員)を検討していく予定です。

また、保育者の確保が大きな課題です。令和8年度の常勤職員を募集しても応募がなく、通常の保育への影響は必至です。そのため子育て支援室をはじめとして事業計画を縮小したり目標を達成できなかつたりする部分があることが予想されます。人材確保に関する大学、短期大学部との連携強化や処遇の見直し等を通して保育者の確保につなげていければと願います。そのために業務改善を図ることも急務です。学級事務の簡素化やDX推進をさらに進める必要があります。DX推進では、ICT支援システム「コドモン」を導入し、保護者の利便性を高めてきています。「コドモン」でのドキュメンテーション機能等の活用も始まり、職員の業務改善への活用をさらに模索していきます。



尚絅大学・尚絅大学短期大学部

令和8年度 尚絅公開講座

38億年の命

— 明るい未来を目指して —

- 開催日 10/10(土)・17(土)・24(土)
- 対象者 男女・年齢に関係なく受講できます
- 受講料 2,000円(高校生以下は無料)
- 開催場所 尚絅大学・尚絅大学短期大学部
九品寺キャンパス
大学1号館10階ホール

【お問合せ】
尚絅大学・尚絅大学短期大学部
庶務会計課
E-mail: shomuk@shokei-gakuen.ac.jp

申込方法は
ホームページにて
お知らせいたします。



尚絅中学・尚絅高等学校

入試説明会

- 開催日 11/8(日)・14(土)
- 時間 9:30~11:30
- 会場 尚絅中学・高等学校



尚絅大学附属こども園

令和8年度 こども園運動会

- 開催日 10/17(土)
- 開催場所 尚絅大学武蔵ヶ丘キャンパス
グラウンド



尚絅祭

開催日

10/31(土)
11/1(日)

会場

九品寺キャンパス
※武蔵ヶ丘キャンパスでは
11月14(土)・15(日)に
尚絅祭を開催します。



大学・短大の尚絅祭と中高の文化祭は

10/31(土)
同日開催!!

開催日

10/30(金)
11/31(土)

会場

尚絅中学・
高等学校



中高文化祭